

「令和7年度病虫害発生予報第8号」の発表について

○今後の主要な病虫害の発生予察情報（発生予報）については次のとおりです。

- ・ 豆類では、大豆の吸実性カメムシ類の発生が、甲信、東海及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 野菜・花きでは、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの発生が、関東、近畿等の複数の地域の一部で多くなると予想されています。
- ・ 果樹カメムシ類の発生が、北関東、東海及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、ねぎのアザミウマ類等、地域によっては多くなると予想されている病虫害があるので注意してください。

国の発生予察情報について

国は都道府県の協力の下、植物防疫法（昭和25年法律第151号）に基づき、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、病虫害の発生調査の結果等を分析し、病虫害の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

本予報は、都道府県が提供する発生予察情報を取りまとめた情報になりますので、地域における情報の詳細は、都道府県病虫害防除所のホームページ等を参照してください。

国の病虫害発生予察情報及び都道府県病虫害防除所のリンク

参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

気象

気象庁の向こう1か月の予報（10月2日付け）では、気温は、北日本で平年並か高い、東日本、西日本及び沖縄・奄美で高いと予想されています。降水量は、北日本、東日本太平洋側及び西日本ではほぼ平年並、東日本日本海側及び沖縄・奄美で平年並か多いと予想されています。

気象庁ホームページ

参照URL: [気象庁 Japan Meteorological Agency](https://www.jma.go.jp/meteorological)（外部リンク）

豆類

豆類で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
大豆	吸実性カメムシ類	甲信、東海、北九州	近畿、四国

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

大豆

・**吸実性カメムシ類**の発生が、甲信、東海及び北九州の一部の地域で多くなると予想されており、三重県から注意報が発表されています。本虫の飛来状況は地域や園地により異なるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、適期に防除を実施してください。

野菜・花き

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
いちご	ハダニ類	北関東	東海
	炭疽病	北関東	南九州
きゅうり	アザミウマ類	近畿、北九州	甲信、北陸
	コナジラミ類	南関東、東海、近畿、北九州	北陸
	褐斑病	北九州	甲信
トマト	コナジラミ類	南関東、東海	甲信
	黄化葉巻病		関東、甲信、南九州
ねぎ	アザミウマ類	北関東、東海、近畿、南九州	南東北、甲信、北陸、北九州
	ネギハモグリバエ	北東北	南東北、南関東、南九州
	黒斑病	南関東、東海	甲信
きく	アザミウマ類	北九州	甲信、沖縄
	ハダニ類		北関東、甲信、中国、北九州
アブラナ科共通	コナガ		北東北、甲信、東海、近畿
作物共通	オオタバコガ	関東、北陸、東海、近畿	南東北、甲信、四国、九州
	シロイチモジヨトウ	東北、関東、北陸、近畿、中国	甲信、東海、四国、九州
	ハスモンヨトウ	南東北、関東、東海、近畿	甲信、北陸、北九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

作物共通

・オオタバコガ、シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの発生が、関東、近畿等の複数の地域の一部で多くなると予想されています。また、シロイチモジヨトウでは、茨城県、埼玉県、千葉県、兵庫県及び広島県から、ハスモンヨトウでは、滋賀県及び兵庫県から注意報が発表されています。幼虫の成育が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期が防除適期になります。都道府県が発表する発生予察情報等を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、適期に防除を実施してください。結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前に防除を実施してください。

なお、上記種類は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。

ねぎ

・アザミウマ類の発生が、北関東、東海、近畿及び南九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、本虫は、高温乾燥で増加する傾向があるため、気温が高く、降水量が少なくなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は注意が必要です。本虫は作物を加害するほか、多くの病原ウイルス病を媒介することが知られています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初

期から防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
かんきつ	かいよう病	東海、南九州	
	ハダニ類	東海、北九州	南関東、南九州
	黒点病	東海	南九州
果樹共通	果樹カメムシ類	北関東、東海、九州	甲信、中国、四国
茶	ハダニ類	東海	南関東、近畿

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

果樹共通

・**果樹カメムシ類**の発生が、北関東、東海及び九州の一部の地域で多くなると予想されており、三重県、佐賀県及び熊本県から注意報が発表されています。現在、本虫が確認されていない園地でも、今後、森林で発生した新成虫が餌を求めて移動し、飛来するおそれがあります。

本虫の飛来状況は地域や園地により異なり、果樹カメムシ類の被害を防止するためには、飛来初期の防除が重要です。昨年は、ほ場の見回り頻度が少なかったため、飛来に気付くのが遅れ、被害が生じた事例が報告されています。都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。果樹カメムシ類は薄暮期から夜間を中心に活動するため、夕方の薬剤散布が効果的です。

また、春の発生量が少ない地域においても、スギ・ヒノキの球果が豊富な場合、主要種であるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシが増え、秋の発生量が増加するおそれがあることから、警戒を緩めずに対策に取り組むことが重要です。

かんきつ

・**ハダニ類**の発生が、東海及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。本虫は、高温乾燥で増加する傾向があるため、気温が高く、降水量が少なくなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は注意が必要です。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期から防除を実施してください。防除を行う場合は、薬液が葉裏にも十分付着するよう、丁寧に散布しましょう。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。

収穫後の水稻害虫対策について

・水稻の再生株（ひこばえ）はヒメトビウンカの越冬源及びイネカメムシの栄養源となり得ます。このため、これらの害虫の発生地域では、密度低減のために収穫後は速やかに耕起し、すき込んでください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

令和7年9月10日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

警報

発表はありません

注) 重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

注意報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
9月11日	兵庫県	野菜類、花き類、豆類	ハスモンヨトウ
9月11日	佐賀県	果樹全般	果樹カメムシ類
9月17日	熊本県	果樹全般	果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、 ツヤアオカメムシ、クサギ カメムシ)
9月18日	滋賀県	ダイズ、野菜類、花き類	ハスモンヨトウ
9月19日	三重県	果樹類(カキ、かんきつ類、ナシ)	果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、 ツヤアオカメムシ)
9月19日	兵庫県	野菜類、花き類、豆類	シロイチモジヨトウ
9月22日	埼玉県	ネギ、ダイズ、ブロッコリー、 その他野菜類	シロイチモジヨトウ
9月22日	三重県	ダイズ	吸実性カメムシ類 (ミナミアオカメムシ)
9月22日	熊本県	トマト、ミニトマト	トマトキバガ
9月25日	千葉県	ネギ	シロイチモジヨトウ
9月30日	広島県	野菜類(ねぎ類、アブラナ科野菜、 豆類、ばれいしょ、アスパラガス等)、 花き類(キク、トルコギキョウ等)	シロイチモジヨトウ
9月30日	茨城県	野菜類、豆類、花き類	シロイチモジヨトウ

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
9月30日	鳥取県	ブロッコリー	ブロッコリー黒斑細菌病
9月30日	大阪府	うり科果菜類（きゅうり）、 なす科果菜類（トマト、なす）など	コナジラミ類
10月1日	岐阜県	野菜類	コナジラミ類（タバコ コナジラミ、オンシツ コナジラミ）

注) 警報を発表するほどではありませんが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

特殊報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
9月11日	宮崎県	キク	キク小斑点病
9月19日	福岡県	ナス	フタテンミドリヒメヨコバイ
9月25日	三重県	キュウリ	クロテンコナカイガラムシ
9月26日	大阪府	タケ類	キモンホソバノメイガ
9月26日	大阪府	タケ類	シナチクノメイガ
9月30日	茨城県	ブルーベリー、チャ	チュウゴクアミガサハゴロモ
10月1日	滋賀県	果樹類（イチジク、カキ、ブドウ、 ナシ、オリーブ等）、チャ、花き類 （ガマズミ等）	チュウゴクアミガサハゴロモ

注) 各都道府県において、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発消長に特異な現象が認められた場合であって、従来と異なる防除対策が必要となるなど、生産現場への影響が懸念される場合に発表します。

病害虫の生態等の生物学的情報や防除に関する情報の詳細については、各都道府県の病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

見慣れない病害虫被害が発生していた場合の対応

植物防疫法により、重要病害虫発生時の通報が規定されています。我が国未発生又は我が国の一部のみが発生している重要病害虫が、万が一国内の未発生地域に侵入した場合、国内の農業生産に重大な損害を与えたり、農産物の輸出を阻害するおそれがあります。こういった重要病害虫の侵入に伴う国内の農業生産や輸出への影響を防止するためには、国内の未発生地域への重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施することが重要です。

農作物に見慣れない病害虫被害が発生していた場合には、最寄りの植物防疫所又は都道府県の病害虫防除所等にお知らせください。

植物防疫所の連絡先

参照URL：<https://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/domestic/dsinnyuu/221121.html>

都道府県の病虫害防除所の連絡先

参照URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/boujosho.html>

(地域)

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信：山梨県、長野県

北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

沖縄：沖縄県

(発生量(程度))

多い(高い)：やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い(やや高い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない(やや低い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない(低い)：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

(参考) 今後の発表予定日

第9号：令和7年11月12日(水曜日)

第10号：令和8年3月11日(水曜日)

(参考) これまでの発表

第1号：令和7年4月16日(水曜日)

第2号：令和7年5月14日(水曜日)

第3号：令和7年6月11日(水曜日)

第4号：令和7年7月9日(水曜日)

第5号：令和7年7月23日(水曜日)

第6号：令和7年8月6日(水曜日)

第7号：令和7年9月10日(水曜日)

【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課

担当者：岡田、城野、古澤

代表：03-3502-8111(内線4562)

ダイヤルイン：03-3502-3382